

関西鉄道⑦ 名古屋までの開通と桑名貨物線

西羽 晃

前回に書いたが、関西鉄道は明治28（1895）年11月7日に揖斐川橋りょう・木曾川橋りょうが開通し、名古屋―草津間が全通した。

関西鉄道時刻表			
名古屋発	桑名発	桑名発	名古屋着
5.10	5.58	6.28	7.15
8.05	8.54	8.25	9.13
10.00	10.53	10.23	11.10
12.50	13.34	13.43	14.35
15.45	16.32	16.37	17.24
18.40	18.57	19.50	20.37
21.00	21.47	21.52	22.39

明治28年11月7日開業時（『扶桑新聞』『伊勢新聞』）



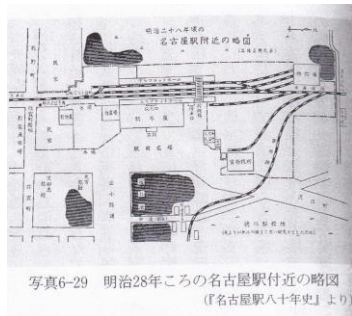
明治28年11月7日伊勢新聞

桑名―名古屋間は1日に7往復で、2時間に1本ほどである、所要時間は約47分ほどである。

名古屋駅では官設鉄道（現 JR）の名古屋駅に接続した。草津駅も官設鉄道の草津駅に接続しており、関西鉄道と官設鉄道は競い合った。関西鉄道は名古屋―草津間は直通運転され、この区間は116.5 kmである。一方官設鉄道の同区間は約125 kmであり、関西鉄道の方が短かった。

明治29年7月3日には名古屋駅よりも南へ543m離れた場所に「愛知駅」を設け、関西鉄道のターミナルとした。明治31年には洋風の駅舎を建てている。

この駅舎は後に岐阜駅に移築されたが、昭和の空襲で焼失した。

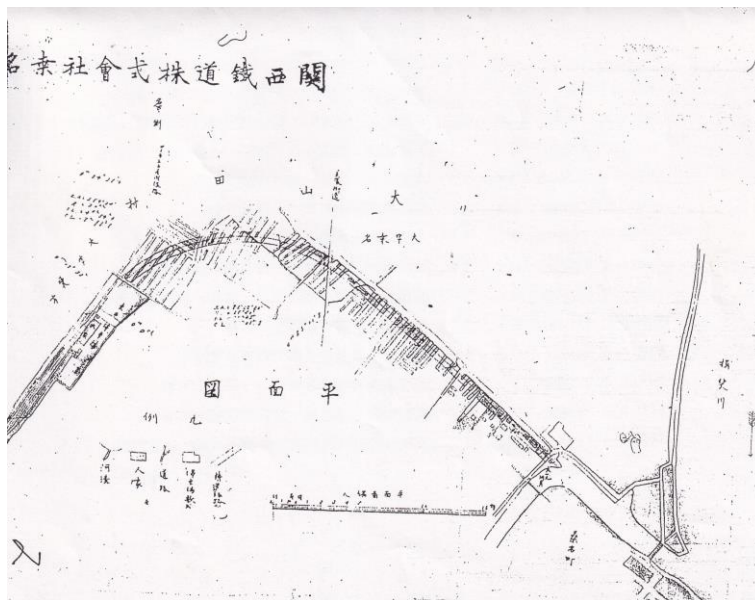


名古屋駅付近の図
(新修『名古屋市史』より)



関西鉄道愛知駅舎
(大垣市奥の細道結びの地記念館編『那波光雄』図録より)

名古屋までの開通を控えて、桑名駅から揖斐川畔までの貨物線を計画して、
明治28年3月15日付で申請をした、



「貨物線布設願」(鉄道博物館所蔵「鉄道省文書」)

元来、桑名は河口にあり、舟運の港として栄えた。しかし明治になって鉄道輸送が盛んとなったので、駅から港までの貨物線を計画したのである。

計画を見ると、駅から諸戸邸までの路線である。この計画は政府の許可が得られずに、「まぼろし」で終わったが、昭和になって運河として実現し、現在も運河の名残りが見られる。